

同時進行する動作の表現型について

安藤好恵

0. 2種類の動作が同時に進行しているさまを表す際に用いられる表現型として、“一边～一边～”文型および“動詞+“着”+目的語+動詞”文型についてみていきたい。安藤1996では、中国語を母語とする話者30人を被験者とし、同時進行中の動作があると考えられる漫画資料を用いて、被験者に画中の人物の動作を記述してもらうという筆記調査を行い、同時進行を表すために“一边～一边～”文型が比較的多く用いられ、部分的に“動詞+“着”+目的語+動詞”文型が用いられるという調査結果を得、これに基づき、分析を行った。関係副詞である“一边～一边～”は、2つ以上の動作が同時に進行することを表すが、“一边～一边～”とアスペクト助詞である“着”を用いた“動詞+“着”+目的語+動詞”文型とが意味的にクロスするのは、

1) 他一边拍桌子一边骂道。

2) 他拍着桌子骂道。

2)のように“動詞+“着”+目的語+動詞”の形で“着”が進行相を表すときである。

本稿では、この共通性に基づき、“一边～一边～”文型および“動詞+“着”+目的語+動詞”文型について、それぞれの文型が表す同時進行中の動作行為について考えたい。

1. まず、“一边～一边～”を用いて表される「同時進行」についてみていく。『現代漢語八百詞』p.528によれば、“一边～一边～”は、同一の主語に対して用いる場合と、異なる主語に対して用いる場合とがある。ところで“一边～一边～”構文は、しばしば日本語の「ながら」を用いて訳されるが、¹⁾「主語が異なる」2種類の動作に対して用いる用法は、日本語の「ながら」には無いものである。そこでまず、(1)動作の主体が異なるタイプについて、次に(2)動作の主体が同一のタイプについてみていくことにする。

(1) 動作の主体が異なるタイプ

異なる2つの主体が、別々の動作を行っているさまを描写するために“一边～一边～”を用いるのは、以下のような場合においてである。

- 3) 老师一边讲, 同学们一边记。(先生が講義をし, 学生達はノートをとる。)
- 4) 小王一边说, 大家一边笑。(王さんがしゃべると, みんなが笑う。)
- 5) 在实验室里, 老师一边讲解, 一边示范, 学生们就一边作实验。(実験室で先生は説明し, 模範を示し, 学生達は実験をする。)
- 6) 战士们一边走, 我们就一边给他们说唱。(戦士達は歩き, 私たちは彼らに歌いかけた。)

3)～6)文中では、異なる動作主による2つ(以上)の動作行為(先生が話す/学生が筆記するなど)が行われているのだが、それぞれのセンテンスは単に名詞と命題間の対立として存在するのではない。まず、2つのセンテンスは、いずれの場合も時と場所(トコロ)を共有する、限定された場面内において同時に進行するという共通性をもつ。

しかしたとえ2つの動作が同一の場面内で行われていても、以下の例7)のような場合には文は成立しない。“*”は文が成立しないことを表す。

- 7) *吃完饭, 他一边看电视, 我一边打毛衣。

これは前節の動作行為(彼がテレビを見る)と後節の動作行為(私がセーターを編む)との間に関連性がないためである。先の3)～6)文をもう一度みると、前節の動作行為によって、後節の動作行為が導き出され、ある情景を構成するという、密接な相互依存のつながりがみられる。

- 8) *我一边在前面走, 他一边在后面跑。

という文は、7)と同様に、別々に起こっている2つの動作の単なる情景描写であれば成立しないが、

- 9) 我一边在前面走, 他一边在后面追。

(私が前を走り, 彼が後ろから追う。)

であれば成立する。もちろんこの場合、“他”が追いかけているのは“我”である。²⁾

以上、“一边～一边～”文中の動作の主体が異なるタイプについてみてきた。3), 4), 5), 6), 9)の文例より、“一边～一边～”を用いて表される2種類の動作行為は、時と場を共有する同一の場面内において、同時に進行する。また、7), 8)が成立しないことから、“一边～一边～”文中の前後の動作行為の間には、相互依存のつながりが要求されることがわかる。従って、異なる主体が別

々の動作行為を同時に行っているさまを“一边～一边～”文型を用いて表すとき、それは同一の場面内における、相互に関連しあう動作行為であると考えられる。

(2) 動作の主体が同一の場合

以下の“一边～一边～”文型は、同一の主体が2種類の動作行為を、同一の場において行っていることを表し、日本語の「ながら」を用いて訳すことができる。

10) 他一边打电话, 一边做记录。

(彼は電話をしながらメモを取っている。)

11) 我们一边走一边说, 很快就到了他家。

(私達は歩きながら話し、あっという間に彼の家についた。)

12) 吃完饭后, 爱人坐在电视机前, 一边织毛衣, 一边看演员演唱。

(食事が済むと、妻はテレビの前に座り、セーターを編みながら音楽番組を見ている。)

しかし、日本語の「ながら」が従属接続助詞であり、「ながら」の前の部分が従属節、後の部分が主節と、文中における主と従の関係がはっきりしているのに対し、“一边～一边”文型は等位複文の中の並列複文に分類されている。《实用现代汉语语法》p.547 によれば、並列複文とは、「各分句がそれぞれ別々にいくつかの事柄、いくつかの状況、あるいは同一事物のいくつかの側面を叙述または描写するもの」である。

動作主が同一である“一边～一边～”文は、前後の文脈のない単文として提示された場合、文中の前後の動詞を入れ換えても、文は成立する。

13) 孩子们一边唱歌一边跳舞。

13)′ 孩子们一边跳舞一边唱歌。

従って、“一边～一边～”文中の2種類の動作行為は、同時に進行しているが、それぞれが独立した動作行為であり、動作主が異なるタイプにみられたような、動作間の相互依存の関連性を必要としない。

また、“一边～一边～”の主語が同一の場合には、(1)の主語が異なる場合のような、「時と場が同じでなければならない」という制約は受けない。

14) 他一边上夜校, 一边作工作。

15) 他一边学中文, 一边学英文。

16) 念高中, 一边读书一边帮有钱的同学装收音机, …

14)~16)は、ある人物が2種類の動作行為を同時期に行っているという状況を表している。このような場合、動作行為は一過性のものではなく、一定の期間繰り返し継続される動作行為である。

以上、動作主が同一である“一边~一边~”文について、文中の動作同士が相互に相手を必要としない、独立した並行的動作であることをみてきたが、実際の発話において、文脈などによる意味的制約を受け、“一边~一边~”文中の前後の動詞を入れ換えることができない場合がある。ここでは、そうした例を挙げ、“一边~一边~”文中の動詞の前後の位置関係にみられる法則性について考える。(以下①, ②で“一边~一边~”文中の前後の動詞を互換できないとした例は、単文として提示された場合には、前後の動詞を入れ換えることはできる。)

①旧情報と新情報

ここで疑問助詞“吗”と“一边~一边~”が共起する、以下のような場面を設定する。

17) AとBは大学のクラスメートである。

AはBにこう尋ねる。

A：你是一边学习一边打工吗？

それに対するBの肯定の答は、

Ba：对，是一边学习一边打工。

Bb：*对，是一边打工一边学习。

Bc：对，我也打工。

Bd：*对，我也学习。

Bcは前節に“也学习”が省略した形として成立する。しかし“也打工”を省略することはできない。ここで話題となっているのはBが働いていることであり、聞き手にとって自明でないインフォメーションは省略できないからである。

これは「情報は聞き手にとって既知のもの(旧情報)から未知のもの(新情報)という順序で流れる」(久野1978)談話原則とも一致する。

②後部重心

“一边~一边~”文中においては、より重要度の高い動作行為が後部に位置する。

18) A：你怎么现在才交稿呢？

B：我是外行，一边查词典，一边翻译，费了好大劲儿。

この場合、Bにとって前の動作(辞書を引く)は、後の動作(翻訳)達成のための手段であり、翻訳することこそが、本来の目的であり、主要な動作である。

19) 来ない客を待っている場合

别着急，我们一边听音乐一边等他来。

19) において、前の動作(音楽をきく)は、後の行為(客を待つ)の付帯状況であって、より重要であり行為としての必要性が高いのは、客を待つという行為である。従って、前後の動詞を入れ換えた、

19)'??别着急，我们一边等他一边听音乐。

19)'は不自然な文になってしまう。

2. 次に“動詞+“着”+目的語+動詞”文型(前に位置する動詞をVa, 後に位置する動詞をVbとする)についてであるが、最初に“Va着(+目的語)Vb”文の性質の一つとして、“Va”が一部の自動詞(“哭, 笑”など)である場合を除いて、“Va着”の後に目的語を必要とすることを挙げる。

20) 他哭着说。

21) 她笑着说。

20)21)は成立するが、

22) * 孩子们唱着跳。

とは言えず、

23) * 孩子们唱着歌跳舞。

のように、“Va 着”の後に目的語を伴わなければならない。

アスペクト助詞“着”は動詞の後につき、進行(ここでは動きが運動として行われることと考える)、およびある動作が行われた結果の持続を表す。

しかし、文中に動詞が2つある“Va着(+目的語)Vb”文型において、“Va着”が進行を表す情況は限られる。例えば、ある日本人の中国語学習者は和文中訳の問題で、「月見をしながら月餅を食べる」という部分を、“赏着月吃月餅”と訳した。出題者はこれを誤訳とし、「～ながら～」の部分は“一边～一边～”文型を用いるべきだとしている。⁸⁾

また、筆者によるインフォーマントチェックでも、“Va着(+目的語)Vb”文型には“着”の前後の動詞の組み合わせに制限があり、インフォーマントによって許容度が異なり、文成立の合否が分かれた。0. で挙げた、

2) 他拍着桌子骂道。

の他に、

24) 她捣着他的额头说。

25) 他咬着手指看书。

などの文は成立するが、

26) ? 他喝着红茶看电视。

27) ? 他吃着饭说话。

26), 27) になると、インフォーマントによっては“一边～一边～”を使うべきだとし、許容しない。“?”はインフォーマントが、非文ではないにしろ、不自然に感じられる、ということを表す。

この言語事実は“Va着(+目的語)Vb”文型のある種の性質を表していると考えられる。

ここでは Va の位置にくる動詞の性質から、“Va着”が表す動作の相についてみていく。

まず“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置にくる動詞について、“穿”を例にとり、比較対象として“挂”を取り上げる。この2つの動詞は共に“动态”と“静态”⁴⁾をもつという共通点をもつ。まず、これらの動詞が“着”と結びつくことを確かめる。

28) 他正在穿着衣服呢。(彼は新しい服を着つつある。)

29) 几个勤务兵正在小心翼翼的挂着地图呢。(数人の勤务兵が注意深く地図を掛けている。)

28), 29) は進行中の動作を表す。また、30) のように、“穿着”は服を着込んでいるという、動作の結果の持続をも表す。

30) 他穿着新衣服。(彼は新しい服を着ている。)

一方、“挂着”が動作の結果の持続を表すのは、存在文中か、目的語(“画”)が特定であれば、“在”を用いた以下のような文中においてである。

31) 墙上挂着一张画。(壁に一枚の絵が掛かっている。)

32) 那张画在墙上挂着。(その絵は壁に掛かっている。)

28) と 30) が、ほぼ同型の文であるのに対し、29) と、31) 32) では文型が変わる。

28) で動作の仕手であった“他”が、30) にも主語として存在するのに対し、29) で動作の仕手であった“几个勤务兵”は、31) 32) の文中には現れない。

こうした事実をふまえ、“穿”と“挂”を“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置に入れる。

33) 他穿着新衣服唱歌。(彼は新しい服を着て歌っている。)

33) の“穿着”は「服を着つつある」という進行中の動作を表さない。Va の位置にある“穿”は「服を着込んでいる」というすでに完了した動作であり、33) 文中で“他”が行っている動作は“唱”だけである。

以下，“穿”類の動詞の例として“梳，系”を挙げる。

34) 她正在梳着小辫儿呢。(彼女はおさげを結っているところだ。)

34)' 她梳着两个小辫儿。(彼女は髪をおさげに結っている。)

35) 她正在系着和服带子呢。(彼女は和服の帯を締めているところだ。)

35)' 她系着红带子。(彼女は赤い帯を締めている。)

34)~35)の“梳着，系着”は進行中の動作を表し，34)'~35)の“梳着，系着”は動作の結果の持続を表している。これらの動詞を“Va着(+目的語)Vb”文のVaの位置に入れる。

36) 她梳着两根小辫儿在舞台上跳舞。

(彼女は髪を2本のおさげに結って舞台上で踊っている。)

37) 她系着红带子跳舞。(彼女は赤い帯を締めて踊っている。)

36)~37)のVaの位置にある“梳着，系着”はいずれも完了した動作である。

ここまで，“动态”と“静态”をもつ動詞“穿，梳，系”についてみてきた。これらの動詞は，“动态”を表す文(28, 34, 35)と“静态”を表す文(30, 34)', 35)')いずれにおいても同一の主語(“他，她”)が現れるという特徴が挙げられる。特に，動作が完了したあとも，動詞の目的語(“衣服”など)は「身に付けている物」として，主語(“他”など)はそれを「身に付ける者」として，相互に密接なつながりを持つ，という点に留意したい。

このような動詞が33), 36), 37)のように，“Va着(+目的語)Vb”文のVaの位置にくることができ，文中では“静态”の意味のみ表す。

33), 36), 37)文中において，文主語(“他”など)は，完了した動作(Va)および進行中の動作(Vb)の仕手であると同時に，既に完了した動作の対象であり，その動作が行われた結果，なんらかの影響を受けている「被体」でもある。

従って，文主語が動作の仕手と被体を兼ねていない，以下の39)は成立しない。

まず，

38) 她正在给孩子穿着衣服呢。(彼女は子供に服を着せているところだ。)

38)では動作“穿”の仕手は“她”であり，その動作を受ける対象は“孩子”である。こうした場合には，

39) * 她正在给孩子穿着衣服哼歌儿。

39)は彼女は鼻歌を歌いながら子供に服を着せている，という意味にならず，文は成立しない。

一方，“挂”を“Va着(+目的語)Vb”文のVaの位置に入れた，

40) * 他挂着地图唱歌。

40) は成立しない。40) の“挂着”は「彼は地図を掛けながら歌を歌っている」という“动态”の意味も、「彼は地図を掛けた状態で歌っている」という“静态”の意味も表さない。

“挂”が“静态”を表すとき、先に

31) 墙上挂着一张画。

でみたように、文中に動作の仕手(であったもの)は現れない。一方、33), 36), 37) の例でみたように、“Va着(+目的語)Vb”文には、Va と Vb の仕手が主語として存在し、また、“动态”と“静态”をもつ動詞は、“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置では“静态”の意味のみ表す。

この対立により、40) が成立しないと考えられる。

以下、“挂”類の動詞の例として、“摆, 种, 写”を挙げる。

41) 他摆着碗筷呢。(彼は食器を並べているところだ。)

41)' 桌子上摆着碗筷。(テーブルの上に食器が並べてある。)

42) 她种着黄瓜呢。(彼女はキュウリを植えているところだ。)

42)' 菜园里种着不少黄瓜。(菜园にはたくさんのキュウリが植えてある。)

43) 孩子写着字呢。(こどもが字を書いている。)

43)' 黑板上写着几行字。(黑板には数行字が書かれてある。)

41)~43) の“摆着, 种着, 写着”は進行中の動作を表し、41)'~43)' の“摆着, 种着, 写着”は動作の結果の持続を表している。これらの動詞を“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置に入れても、40) 同様、文は成立しない。

44) * 他摆着碗筷唱歌。

45) * 她种着黄瓜唱歌。

46) * 孩子写着字听音乐。

以上のことから、“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置にくる動詞は、動作の仕手とその動作を受ける被体が同一人物であるという特徴をもち、“Va着(+目的語)Vb”文の Va の位置では、動作が行われた結果の持続の状態のみを表す。従ってこの場合、文中に2つ動詞があっても、叙述の段階で進行中の動作は Vb だけである。言い換えれば、“Va着(+目的語)Vb”文において Va は、Vb に付随する従属的なものであり、“Va着(+目的語)”の部分 Vb の一種の様態説明である。

それでは、Va が“态”の区別をもたない動詞の場合はどうだろうか。

“Va着(+目的語)Vb”文において、Va が進行中の動作である例は、存在

するが少数である。先に挙げた、

26) ?他喝着红茶看电视。

27) ?他吃着饭说话。

26), 27)などは不自然さが感じられ、成立するのは、

2) 他拍着桌子骂道。

24) 她捣着他的额头说。

25) 他咬着手指看书。

などである。

“动态”と“静态”をもつ動詞は、Va の位置では“静态”のみを表す、つまり状態化が要求されるという“Va着(+目的語)Vb”文の性質から、Va が進行中の動作であっても、話し手の視線の焦点は Vb に合わせられ、“Va着(+目的語)”は Vb の動作行為の一部としてフレーム内におさまる。Va と Vb がこのような関係にあるとき、文の成立が許容されると考えられる。⁵⁾文中に2つの進行中の動作があるということは、話し手の視線の焦点も分散され、動作同士の依存度は低く、それぞれの動詞の独立性が高いことになる。従って、Va と Vb が独立した別々の動作と感じられるような組み合わせは不自然に感じられる。(さきの26)?他喝着红茶看电视。の“?”はこのためである。)⁶⁾

また、日本語で「風呂に入って歌を歌う」というが、これを“Va着(+目的語)Vb”文で表すと、

47) 哼着歌洗澡呢。

「歌を歌う」の部分が前に出る。あくまでも「風呂に入る」が主たる動作なのである。

48) 他看着妹妹恋恋不舍地走出去。

48) の“看着妹妹”は名残惜しそうに出ていく情景の一部となっているが、同じ動詞“看”と“走”を使った文でも、

49) ?他看着风景走路。

49) の場合は「風景を見る」ことと「歩く」ことの2つの動作行為であり、やはり“一边～一边～”文型の使用が適当である。

3. 以上、“一边～一边～”文型および“Va着(+目的語)Vb”文型についてみてきた。この2文型を用いて表される、同時進行する2種類の動作行為の別は、以下のようなものである。

“一边～一边～”文型：相互に相手を必要としなくとも個別に成り立ち得る、

独自の並行的動作。

“Va着 (+目的語) Vb” 文型：Va が、Vb という主たる動作に付随する従属的動作、と話し手がとらえているような、密接不可分な一体の動作。

最後に、“一边～一边～” 文型および“Va着 (+目的語) Vb” 文型のニュアンスの違いについて、以下の例を挙げる。

50) 他推着自行车走路。

51) ??他一边推自行车一边走路。

51) の例では、“推自行车”の“走”に対する従属度が高く、“推”が独立した動作行為と感じられないため、“一边～一边～”の使用が不自然になる。51) が成立するのは、自転車がパンクしていて引きずるようにして歩いて行かなければならないときで、この場合は“推”と“走”は分離した2動作とみなされ、文が成立する。

<注>

1) この「ながら」は、「タバコヲ ノミナガラ オシャベリ シテイル」などの、〈あるおもな(と認められる)動作に平行して継続する(副次的と認められる)動作を表す〉もので、「セッカク 八合目付近マデ ノボリナガラ 登頂ハ アキラメタ」のような場合の、〈逆接条件〉を表すものとは別である。(「ながら」の分類については南1974による。)

2) 例外的に以下のような文も成立する。

(教室で) 老师一边上课, 他一边看小说。(先生は授業し, 彼は小説を読む。)

文中の2つの動作行為“上课”と“看小说”の間に関連性はない。しかしこの2つの動作行為が起こっているのは授業中という場面においてであり、本来ならば、こうした状況は有りうべからざるものである。話し手は、“一边～一边～”を用いてそれが同一の場面内であることを強調し、不自然さを際立たせているのである。

3) 『中国語』(内山書店) 1990年10月号に問題が掲載。解答は1991年1月号。出題及び解答者余延玲氏。

4) “动态”と“静态”の定義は李臨定1990による。“动态”とは「動作動詞で表される運動状態」をいう。これに対する“静态”は「動作の結果の状態」をいう。

5) さきの

22) * 孩子们唱着跳。

とは言えず、

23) 孩子们唱着歌跳舞。

のように、“Va着”の後に目的語を伴わなければならないというもの、目的語が加わることが状態化をもたらししていると考えられる。

6) インフォーマントによっては、

“不要吃着饭看电视。”（ご飯を食べながらテレビを見てはいけない。）

という文は成立するという。この場合，“吃着饭看电视”の部分全体で一かたまりとなり，“不要”の指定を受けるため，“Va着（+目的語）Vb”文の成立が許容されるのであろう。

〈参考文献〉

- 荒川清秀 1985 「“着”と動詞の類」『中国語』7月号
大塚秀明 「類義語のニュアンス86」東方書店
木村英樹 1981 「『付着』の“着/zhe/”と『消失』の“了/le/”」『中国語』7月号
安藤好恵 1996 「中国語母語話者による同時進行のとらえ方と表現型について」お茶の水女子大学中国文学会報 第15号（1996年4月）
李 臨 定 1990 《現代漢語動詞》中国社会科学出版社
劉月華等 1983 《实用現代漢語語法》外語教学出版社
呂 叔 湘 1980 《現代漢語八百詞》商務印書館
北京大学中文系 1955/1957級言語班編 《現代漢語常用虚詞詞典》商務印書館
久野 暲 1978 『談話の文法』大修館書店
南不二男 1974 『現代日本語の構造』大修館書店

（お茶の水女子大学大学院）